

(平成28年度分)

団体名	公益財団法人青少年野外活動総合センター		
			
			

日常で起こる軽微な怪我や体調不良に対するファーストエイドから、心肺停止など差し迫った緊急事態に対応する救急法普及のため、MEDIC First Aid チャイルドケアプラスコースを開催しました。

一回8時間超の長時間講習であることに加え、受講料も有料であるため、受講者数は多くはなかったものの、「緊急事態に気づき、実際にアクションを起こす人を育てる」ことを目的として設計された本コースの受講者は、実際に目の前で起こった緊急事態に慌てず適切な対応ができたとの報告を受けています。

事例1：女子大生M.Nさん

2016年8月某日、瀬戸内海のとある島にて、映画撮影の完成試写会後、島民との打ち上げの際、酒に酔った島民の一人が階段から足を滑らせ、転落し、頭部を流血していました。彼女はまず自分や周囲の人々の安全を確認した上で、傷病者に近づき、全身の受傷機転を確認しました。特に頭部へのダメージに対する対応が重要と判断し、止血のため、あり合わせの布で直接止血し、病院へ運ぶ船を操船する方へ傷病者を引き継ぎました。

後日、彼女は「MEDIC First Aid チャイルドケアプラスコースを受講したおかげで、慌てず適切な処置を行うことができた。」と話していました。